

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成23年2月24日(2011.2.24)

【公表番号】特表2009-504190(P2009-504190A)

【公表日】平成21年2月5日(2009.2.5)

【年通号数】公開・登録公報2009-005

【出願番号】特願2008-527139(P2008-527139)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	31/713	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	31/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/20	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	27/02	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/16	(2006.01)
A 6 1 P	27/16	(2006.01)
A 6 1 P	3/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/18	(2006.01)
A 6 1 P	3/06	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	13/12	(2006.01)
A 6 1 P	15/08	(2006.01)
A 6 1 P	19/02	(2006.01)
A 6 1 P	19/06	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	9/10	(2006.01)
A 6 1 P	9/12	(2006.01)
A 6 1 K	31/712	(2006.01)
A 6 1 K	31/7125	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	31/713	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/06	
A 6 1 P	31/00	
A 6 1 P	31/20	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	25/28	
A 6 1 P	11/00	
A 6 1 P	27/02	
A 6 1 P	17/00	

A 6 1 P 1/16
 A 6 1 P 27/16
 A 6 1 P 3/00
 A 6 1 P 1/18
 A 6 1 P 3/06
 A 6 1 P 3/10
 A 6 1 P 3/04
 A 6 1 P 13/12
 A 6 1 P 15/08
 A 6 1 P 19/02
 A 6 1 P 19/06
 A 6 1 P 9/00
 A 6 1 P 9/10
 A 6 1 P 9/12
 A 6 1 K 31/712
 A 6 1 K 31/7125

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月28日(2010.12.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

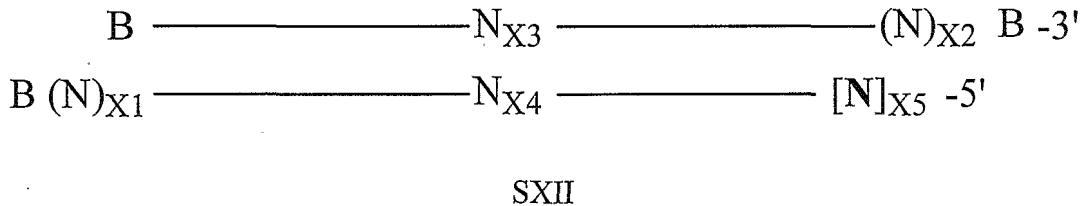
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

センス鎖とアンチセンス鎖を含む構造 SXII を有する二本鎖核酸分子：

【化1】



[ここで、二本鎖核酸分子の上側の鎖はセンス鎖であり、下側の鎖はアンチセンス鎖であり、前記アンチセンス鎖は、標的RNAに相補的である配列を含み、各Nは独立にヌクレオチドであり、各Bは存在しても、しなくても良い末端キャップ部分であり、(N)は、無修飾でも、化学修飾されていても良い、非塩基対形成ヌクレオチド又はオーバーハングヌクレオチドであり、[N]はリボヌクレオチドであるヌクレオチド位置であり、X1及びX2は独立に約0～約4の整数であり、X3は約9～約30の整数であり、X4は約11～約30の整数であって、但しX4とX5の合計は約17～36であり、X5は約1～約6の整数であり、ならびに

(a) アンチセンス鎖中に存在する任意のピリミジンNヌクレオチドは2' - デオキシ - 2' - フルオロヌクレオチドであり、アンチセンス鎖中に存在する任意のプリンNヌクレオチドは2' - O - メチルヌクレオチドであり、

(b) センス鎖中に存在する任意のピリミジンNヌクレオチドは2' - デオキシ - 2' - フルオロヌクレオチドであり、センス鎖中に存在する任意のプリンNヌクレオチドはデオキシリボヌクレオチドであり、および

(c) 任意の(N)ヌクレオチドは、2' - O - メチル、2' - デオキシ - 2' - フル

オロ又はデオキシリボヌクレオチドであっても良い]。

【請求項2】

$X_5 = 1, 2$ 又は 3 ; 各 X_1 及び $X_2 = 1$ 又は 2 ; $X_3 = 1\ 2, 1\ 3, 1\ 4, 1\ 5, 1\ 6, 1\ 7, 1\ 8, 1\ 9, 2\ 0, 2\ 1, 2\ 2, 2\ 3, 2\ 4, 2\ 5, 2\ 6, 2\ 7, 2\ 8, 2\ 9$ 又は $3\ 0$ 、並びに $X_4 = 1\ 5, 1\ 6, 1\ 7, 1\ 8, 1\ 9, 2\ 0, 2\ 1, 2\ 2, 2\ 3, 2\ 4, 2\ 5, 2\ 6, 2\ 7, 2\ 8, 2\ 9$ 又は $3\ 0$ である、請求項1に記載の二本鎖核酸分子。

【請求項3】

Bが、センス鎖の3'及び5'末端に存在する、請求項1に記載の二本鎖核酸分子。

【請求項4】

s i N A分子のセンス鎖、アンチセンス鎖又はセンス鎖とアンチセンス鎖の両方の3'末端上の第1の末端(N)における1個以上のホスホロチオアートヌクレオチド間結合を含む、請求項1に記載の二本鎖核酸分子。

【請求項5】

薬剤として許容される担体又は希釈剤中に請求項に記載1の二本鎖核酸分子を含む、組成物。